

再稼働 抗議のダイイン 官邸前、福島的女性ら

脱原発を訴える福島県的女性らのグループが七日、関西電力大飯（おおい）原発3、4号機（福井県おおい町）の再稼働に向けた政府の動きに反対するため、首相官邸前の歩道に横たわる「ダイイン」で抗議した。この日は午後二時すぎから福島県や東京都などの女性約七十人が参加した。行動を呼び掛けた市民団体「原発いらぬ福島的女性たち」のメンバーは、官邸に向かって拡声器で「口先だけの安全宣言でつくるい、再稼働を急ぐのは暴挙以外の何ものでもない」と声を張り上げた。三歳の娘と参加した東京都目黒区のパートの女性（30）は「福島の事故がまだ落ち着かず、住民への補償も進んでいない中で、再稼働はありえない」と訴えた。抗議行動には、社会学者の上野千鶴子さんや歌手の加藤登紀子さんも応援に駆け付けた。福島的女性たちが野田佳彦首相に伝えたこと（抜粋）



●汚染しているところで生きることはとても辛いです。私は生きる希望を失いました。でも、辛いということを皆さんに伝えることで、生きようとしています。皆さんにもこういう思いしてほしいです。

●こどもをできるだけ安全な食事で育てたいと思ひまして、有機農業を始めました。でも全て、田んぼも畑も汚染されました。毎日食事の支度をしながら、こどもたちに何ベクレル…そういう野菜を食べさせることに、非常に迷いがあります。将来何か影響が出るんじゃないかと…。分かりますか？この気持。皆さんはどのくらい福島へいらっしやいましたか？どのくらい、あの何%の空気を吸いましたか？野田さんは何回いらしたんですか？何時間過ごしたんですか？私たちは毎日毎日そこで、空の上をヘリコプターが飛び度に、又原発で何かあったんじゃないかって、畑仕事しながらほんとに毎日不安で仕方ないんです。こういう状態なんですよ福島の間は。全く分かってないと思います。分かってないから、大飯原発動かすなんて言えるんで

す。どうしてわかつたかという不安な感じが、福島を見に来ないんですか！野田首相はこの国のリーダーだそうですが、私は絶対人間的に許せません。間違っていると思います。どうぞそのことを伝えて下さい。

●常に緊張した状態で、肉体的にも精神的にもいます。私自身は6月の下旬あたりから、次から次にいろんな症状が現れました。それはチエルノブイリの村々と全く同じ、そういう症状が現れています。わきの下が二日間も痛い時は気持ち悪いです。放射線が高い時に私たちは決定的な被曝をしているんです。その上に内部被曝を毎日させられています。ですから大飯原発の再稼働は絶対にしてはならないものです。準備がないのにやるってことに罪があるんです。その上に事故が起こったら、罪を重ねて行くことになるんです。福島が示しているんです。

●私は娘が一人いますが、それがたまたま一月下旬に赤ちゃんを産みまして、あの事故に遭い、避難しなきゃというところで、色々考えてたんですけど、あの時福島県はガソリンもない、交通手段もない、飛行場も整理券がないといけないというところで、避難する手立てもなく、うちで泣く泣く、被曝しようってことでその一ヶ月ちよっとの孫と三人で…（涙）。ごめんなきいこんなつもりじゃなかったんですが、／こどもを守りたいっていうのがあるんですね。除染にお金をかけるんなら、とにかくこどもたちを疎開させてほしいんです。

●私たちは本当に不安の中で暮らしています。どうか想像して下さい。例えば洗濯物を外に干せない。布団を干せない。深呼吸ができない。私は孫がいますけど、やっぱり県内に、郡山によぶことはできません。放射線量が高いので…。そんな中でプールがまた始まります。プールにいったばいついているんです。コンクリートにね。あれはとれないんです、ちよっとぐらいがーがーやっただって。底にはセシウムがたまっています。で、水自体がこわいしね。日々被曝しているんです私たちは。特にこどもたちは危ないんです。そこら辺は勉強されて分かっていると思うんですけどね。私たちよりはるかに、放射線の怖さについてね…。福島のことをもっと知って下さい。そうすれば再稼働のさの字も出ないはずなんです。人間として対応して下さい。

野田首相の大飯原発再稼働について国民に理解を求めぬ声明

本日は大飯発電所3、4号機の再起動の問題につきまして、国民の皆様は私自身の考えを直接お話をさせていただきたいと思っております。

4月から私を含む4大臣で議論を続け、関係自治体の「理解を得るべく取り組んでまいりました。夏場の電力需要のピークが近づき、結論を出さなければならぬ時期が迫りつつあります。国民生活を守る。それがこの国論を二分している問題に対して、私がより立つ唯一絶対の判断の基軸であります。それは国としての果たさなければならぬ最大の責務であると言っています。

この意味の意味するところは二つあります。国民生活を守るための第一の意味は、次代を担う子どもたちのためにも、福島のような事故は決して起こさないことと二つござります。福島を襲ったような地震津波が起しても事故を防止できる対策と体制は整っています。これまでに行われた知見を最大限に生かし、もし万が一すべての電源が失われるような事態においても、炉心損傷に至らないことが確認されています。

これまで一年以上の時間をかけ、A-EAや原子力安全委員会を含め、専門家による40回以上にわたる公開の議論を通じて得られた知見を慎重には慎重を重ねて積み上げ、安全性を確認した結果であります。もちろん、安全基準に「これで絶対というものはございません。最新の知見に照らして常に見直していかなければならない」というのが東京電力福島原発事故の大きな教訓の一つでございます。そのため、最新の知見に基づき、30項目の対策を新たな規制機関の下で法制化を先取りして、期限を区切って実施するよう、電力会社に求めさせていただきます。

その上で、原子力安全への国民の信頼回復のためには、新たな体制を一刻も早く発足させ、規制を刷新しなければなりません。速やかに関連法案の成案を得て実施に移せるよう、国会での議論が進展することを強く期待をしています。こつた意味では実質的に安全は確保されているものの、政府の安全判断の基準は暫定的なものであり、新たな体制が発足した時点で、安全規制を見直してこつたこととなります。その間、専門職員を擁する福井県にも協力を仰ぎ、国の一元的な責任の下で、特別な監視体制を構築いたします。これにより、さきの

事故で問題となった指揮命令系統を明確化し、万が一の際にも私自身の指揮の下、政府と関西電力双方が現場での確な判断ができる責任者を配置致します。なお、大飯発電所3、4号機以外の再起動については、大飯同様に引き続き丁寧に個別に安全性を判断してまいります。

国民生活を守るための第一の意味、それは計画停電や電力料金的大幅な高騰といった日常生活への悪影響をできるだけ避けることと二つござります。豊かで人間らしい暮らしを送るために、安価で安定した電気の存在は欠かせません。これまで、全体の約3割の電力供給を担ってきた原子力発電を、止めてしまったら、あるいは止めたままでは、日本の社会は立ちゆきません。数%程度の節電であれば、みんなの努力で何とかできるかも知れません。しかし、関西での15%もの需給ギャップは、昨年の東日本でも体験しなかつた水準であり、現実にはきわめて厳しいハードルだと思います。仮に計画停電を余儀なくされ、突発的な停電が起れば、命の危険にさらされる人も出ます。仕事が成り立たなくなってしまう人もいます。働く場がなくなってしまう人もいます。東日本の方々は震災直後の日々を鮮明に覚えておられると思います。計画停電がなされるという事態になれば、それが実際に行われるか否かにかかわらず、日常生活や経済活動は大きく混乱をいたします。

こつた事態を回避するために最善を尽くさなければなりません。夏場の短期的な電力需要の問題だけではありません。化石燃料への依存を増やして、電力価格が高騰すれば、ぎりぎりの経営を行っている小売店や中小企業、そして家庭にも影響が及びます。空洞化を加速して雇用場が失われてまいります。そのため、夏場限定の再稼働では、国民の生活は守れません。

そして、私たちは大都市における豊かで人間らしい暮らしを電力供給地に頼って実現をいたしました。関西を支えてきたのが福井県であり、おおい町であります。これらの立地自治体はこれまで40年以上にわたる原子力発電と向き合い、電力消費地に電力の供給を続けてこられました。私たちは立地自治体への敬意と感謝の念を新たにしなければなりません。

以上を申し上げた上で、私の考えを総括的に申し上げます。国民の生活を守るために、大飯発電所3、4号機を再起動すべきだというのが私の

判断であります。その上で、特に土地自治体の「理解を改めてお願いを申し上げたい」と思っています。「理解をいただいた」ことで再起動のプロセスを進めてまいりたいと思っております。

福島で避難を余儀なくされたご家族や、福島に生かされたご家族。そして不安を感じる母親の皆さん。東電福島原発の事故の記憶が残る中で、多くの皆さんが原発の再起動に複雑な気持ちを持たれていることは、よくよく理解できます。しかし、私は国政を預かるものとして人々の日常の暮らしを守るという責務を放棄するとはできません。

一方、直面している現実の再起動の問題とは別に、3月11日の原発事故を受け、政権として中長期のエネルギー政策について、原発への依存度を可能な限り減らす方向で検討を行ってまいりました。この間、再生エネルギーの拡大や省エネの普及にも全力を挙げてまいりました。

2012.6/9 野田首相の原発再稼働意見表明を聞いて

釋 晃麗

「いのち」へのまなざしはないと悟った

負をかかえこまれた「いのち」はどうするのか

7代後のことも考えて決めるのが大人の役割と 米先住民のことわざくらい知っているだろうに
言い切る事が大人ではない

既存権益の保持、社会変革の恐れ

これは国の行く末を左右する大きな課題であります。社会の安全安心の確保、エネルギー安全保障、産業や雇用への影響、地球温暖化問題への対応、経済成長の促進といった視点を持って、政府として選択肢を示し、国民の皆さんとの議論の中で、8月をめどに決めていきたいと思っております。国論を二分している状況で一つの結論を出す。これはまさに私の責任であります。

再起動をせないというようにして、生活の安心が脅かされることがあつてはならないと思います。国民の生活を守るための今回の判断に、何となく「理解をいただきたい」ようにお願いを申し上げます。

また、原子力に関する安全性を確保し、それを更に高めつめく努力をどうしても不断に追求していくことは、重ねてお約束を申し上げます。私からは以上でございます。

「自らの目で見て 考えて 自力で生きる事」

自分中心のまなざしと 諸悪の根源

危険がさらに増しても 除染「ジネ」スに変わる 巨大マナーの流れを止めたくない意志
使っただけ使い「ごみとして捨て捨てるられない」ごみはフタをして地方に送る

「現実的な生き方」とは子孫にドンドン押しつけることなのだろう

民衆は 抑圧されて 抑圧されて 最後は決起して変革するとマルクスは言ったらしいが あやまりだ
人は 抑圧され続けて それになれてしまっ

それはそうだが そうなのだけねど 理性と自我で「いのち」を私物化する生き方は 気づけば 他者を切り捨て 自然を切り捨て 自分すら切り捨ててはしまわないだろうか

「生かしているのではない」「生かされているのだ」と思えた時 私も少くもともなるのではないか
感謝の念がカケラもないような私が 原発を推進している

「私は生きていく」と言うのであれば「死」も止められるはず

そんな私が 今の生活を手離せないでいる

「いのち」は 私の中で 生きていくのであって 私がいのちの所有者ではない

私が東電だ 私が野田だ 腐れ 政官財だ ただ ただ そう思ったのです